

ルニ至ル、其瘡瑣屑ナルモノハ、濃少ク痒ミ多クシテ治シ難ク、肥大ナルモノハ、膿多ク痛ミ甚シクシテ治シ難シトセズ、傳藥浴藥ツケ薬、ヤクナドニテ一旦治スレドモ病根盡キ難ク、春秋ニハ必ズ再發シテ生涯愈ザルモノ多シ、格別ノ大病ト云フニハ非ザレドモ、小兒ハ羸瘦骨立シテ面色萎黃ニナリ、疔ヲ併病スルモノナリ、又毒凝滯シテ總身ニ幾ツモ癰癤ヲ發シ、濃血淋漓トシテ流レ、遂ニ疲勞シテ死スルモアリ、大人モ多ク發スルトキハ四肢不自由ニナリ、看病人ノ入ルコトアリ、一種頑癬ノ如クニ發シ、紫黑色ニナル者アリ、是ハ毒ノ尤深キナリ、刺シテ血ヲ去ルベシ、此病ノ恐ルベキハ内攻ナリ、内攻スルトキハ、急ニ衝心シテ死スルコト、脚氣ノ衝心ト同ジ、

〔雲錦隨筆四〕疥瘡の内攻には、伊勢蝦を煮て食すべし、又乾たるを煎じのむもよし、

〔一話一言二十三〕疥濕瘡。

如來善巧呪經云、若疥濕瘡、亦用萎華、細末酥和、火上煎之、呪千八遍、塗上即愈、今俗間に濕瘡といふもの、疥濕瘡なるべし、

〔倭名類聚抄三〕癬 說文云、癬音淺、俗云乾瘍也、

〔箋注倭名類聚抄二〕醫心方醫黠訓多无之、萬安方癬俗云阿和比加佐、又云多虫、今俗呼多牟之、

略 所引广部文、釋名、癬、徙也、浸淫移徙、處日廣也、病源候論云、癬病之狀、皮肉隱疹如錢大、漸々增長、或圓或斜、痒痛有匡郭、裏生蟲、搔之有汁、按說文所釋、蓋乾癬也、病源候論云、乾癬但有匡郭、皮枯索、痒搔之白屑出是也、

〔增補下學集上〕癬ニカサ

〔醫心方十七〕治癬瘡方第二

病源論云、癬病之狀、皮肉上隱疹チ、ホム如錢文、漸々增長、或圓或斜、痒痛有匡郭、裏生虫、搔之有汁、此由風濕、耶氣容於湊理、復值寒濕、與血氣相搏、則血氣否澀、發此病案、九虫論云、蟻虫在人腹内、變化多端、發動